

一関街道(石巻街道)

芭蕉一行が登米から一関に入る際に通ったとされるのが、一関街道(概ね現在の国道342号)です。芭蕉一行が登米を出た際には曇りでしたが、途中雨が強くなったため、涌津で馬に乗ったと考えられています。「合羽もとおる」ほどの雨に打たれながら一関を目指しました。

迫街道(陸奥上街道)

芭蕉一行が一関から岩出山に向かう際に通ったとされるのが、迫街道(陸奥上街道)です。現在もこの街道沿いには「迫街道(苅又)一里塚」が残っています。また、一関市真柴、萩荘地内の未舗装分は、令和元年10月に文化庁選定「歴史の道百選」の追加選定を受けました。



おくのほそ道ゆかりの地 案内マップ

おくのほそ道 街歩きマップ

芭蕉が歩いた道をたどる

18のオススメスポット紹介
歴史の道百選をトレッキング
コラム・ちょっと一息 etc

芭蕉ゆかりの地
「歩き旅」してみませんか



一関市へのアクセス

東北新幹線・北海道新幹線		一 関
東京	約1時間54分(最速)	
仙台	約21分(最速)	
盛岡	約27分(最速)	
新青森	約1時間39分	
新函館北斗	約2時間47分	

東北自動車道

川口JCT	約4時間20分(420.3km)	一 関 IC
仙台宮城IC	約55分(87.9km)	
盛岡IC	約60分(91.8km)	
青森IC	約3時間(259.2km)	

「ゆかりの地」へのバスでの行き方

ゆかりの地	バス路線名	最寄りのバス停
涌津宿	岩手県交通 一関花泉線	「涌津下町」から北西へ徒歩0分
金沢宿	岩手県交通 一関花泉線	「金沢本町」から東へ徒歩0分
導心塚(至心道士塚)	岩手県交通 一関花泉線	「関生園前」から東へ徒歩25分
細布長根山頂東屋	岩手県交通 関ヶ丘線	「市営アパート6号棟前」から南東へ徒歩4分
カッパ屋	岩手県交通 本郷線	「機織山」から北東へ徒歩6分
二夜庵跡	岩手県交通 巖美溪・端山線	「一関一高前」から西へ徒歩2分
配志和神社句碑	岩手県交通 一関前沢線 東磐交通 一関線	「配志和神社前」から西北へ徒歩6分
中尊寺経蔵	岩手県交通 るんるん一関線	「中尊寺」から西北へ徒歩14分
中尊寺金色堂	岩手県交通 るんるん一関線	「中尊寺」から西北へ徒歩14分
高館義経堂	岩手県交通 るんるん一関線	「高館義経堂」から北へ徒歩4分
迫街道分岐点	岩手県交通 一関花泉線	「願成寺前」から南へ徒歩1分
女殺し坂	市営バス 栃倉・川台線	「蔵主沢」から南西へ徒歩5分
おくのほそ道の碑	市営バス 栃倉・川台線	「川台中央公民館前」から南へ徒歩14分
迫街道一里塚	市営バス 栃倉・川台線	「川台中央公民館前」から南へ徒歩14分

※市営バス栃倉・川台線は月・木のみ運行。

観光のお問い合わせ

(一社)一関市観光協会
TEL: 0191-23-2350
一関市の観光情報はこちら!
<https://www.ichitabi.jp/>



ガイドのお問い合わせ

いわいの里ガイドの会
TEL: 0191-48-5888
web上でもマップを紹介中



発行

一関市まちづくり推進部
まちづくり推進課
岩手県一関市竹山町7-2
TEL: 0191-21-2111 (代)

迫街道 一里塚 (はさまかいどう いちりづか)



天気良、一ノ関ヲ立

曾良旅日記には、元禄2年(1689)5月14日に一関を出発し、岩ヶ崎を経て岩出山(宮城県大崎市)に宿泊したことが書かれており、その際に通ったのが、迫街道(陸奥上街道:奥州街道一関から岩出山を結ぶ街道)と考えられています。

江戸時代には、1里(約4km)ごとを目安として街道の両脇に5間(約9m)四方の塚(一里塚)が設置されました。脇街道である迫街道にも一里塚が設置され、その内の一つが今も残り一関市の指定文化財となっています。

一ノ関、黄昏ニ着

松尾芭蕉は元禄2年(1689)3月27日(陽暦5月16日)、江戸深川から、みちのくを巡る旅に出ました。

5月12日(陽暦6月28日)に、登米の検断の屋敷を出発し、概ね現在の国道342号すなわち、「一関街道」を辿り、夕闇せまる黄昏時、豪雨の中、一関に到着しました。翌5月13日(陽暦6月29日)、快晴のなか平泉へ向かい、百年に亘る藤原三代の栄華と義経の悲劇に思いを馳せました。その日も一関に宿をとり、翌5月14日(陽暦6月30日)岩出山に向かいました。

芭蕉が一関に二泊したことは、曾良旅日記に記されていますが、宿についての記述がなく、正確な場所は明らかになっていません。曾良旅日記には「主、水風呂敷ヲシテ待」とあります。町人の街であった地主町内の屋敷、あるいは、旅籠に泊まったのではないかと考えられています。

千厩の馬に乗った?

芭蕉は、涌津宿(現一関市花泉町)から馬に乗り一関へ向かっています。

この地方は馬産地として知られており、例えば、千厩(現一関市千厩町)は、平安時代、源義家が軍馬1000頭をつないだとか、奥州藤原氏の厩舎が1000棟あったなどの伝承がある地域で、藤原秀衡が源義経に贈った名馬「太夫黒」の出生地と伝わっています。



涌津宿



登米から6里(約24km)ほどで涌津宿に着きます。涌津八幡神社や紫館跡などの旧跡も多い集落です。芭蕉一行は松島から徒歩続きで、雨も強くなったため、ここで馬に乗ったと曾良旅日記にあります。現在も涌津地区には土蔵の家や鉤型に曲がる道などが残っています。

金沢宿



涌津宿から1里(約4km)ほどで金沢宿に着きます。芭蕉一行は降雨のため金流川を渡ることを避け、さらに一関街道を北上して山越えで一関に入ったと考えられています。現在も金沢地区では、当時の屋号が残り、各家々に屋号の行灯が掲げられています。

導心塚 (至心道士塚)



一関と花泉の境にある丘の上には、即身仏となった至心道士(修行僧)を埋葬したと伝えられる導心塚があります。芭蕉一行は、このそばの道を通り、金沢宿から一関の宿へ向かったと考えられています。

細布長根山頂東屋



カッパ崖までの尾根伝いに続く道は古来「細布長根」とよばれる由緒ある道です。途中、左手に栗駒山が見え、その先の山頂に東屋を設置しています。

カッパ崖



崖の下の沢川からカッパが這い上がったなどの伝説がある場所です。地元の篤志家が設置した、おくのほそ道についての説明板があります。

二夜庵跡



磐井橋のたもと(一ノ関駅側)には「二夜庵跡」の顕彰碑が建っています。二夜庵とは、幕末から明治期にこの近くに住まいした俳人である金森常丸の号です。芭蕉がおくのほそ道の旅で一関に二泊したことに因んだものです。

配志和神社句碑



平泉までの奥州街道沿いにある神社です。日本武尊が東征の時に三神を祀り「火石輪」と号し、これがのちに「配志和」と改められたと伝えられています。参道から社務所へ向かう途中と社殿前に、俳諧愛好家が設置した芭蕉の句碑があります。

松尾芭蕉 ゆかりの地ごあんない

中尊寺 経蔵



中尊寺金色堂の側に建つ経蔵には、奥州藤原氏の時代から伝えられた貴重な経典が納められていましたが、現在は宝物館の讚衡蔵に移されています。曾良旅日記には、堂内を実際に見ることは叶わなかったと記されています。

中尊寺 金色堂



奥州藤原氏初代清衡が造営した中尊寺は、度重なる火災によって多くの堂塔が焼失してしまいましたが、金色堂だけは創建当初のまま残り、芭蕉が見た頃は覆堂の中がありました。堂内には奥州藤原氏4代の亡骸が納められています。

高館義経堂



高館の丘の頂きには、天和3年(1683)に第4代仙台藩主伊達綱村が義経を偲んで建立した義経堂があります。芭蕉一行は、眼前に広がる絶景と向き合い奥州藤原氏をしのび、旅の大きな目的を果たしたと考えられます。

迫街道分岐点



一関から南へ進むと、左手は奥州街道、右手は芭蕉が通ったと考えられる迫街道の分岐点があります。この場所には江戸時代に建立された道しるべがありましたが、現在は分岐点から右手をしばらく進んだ場所に移されています。

女殺し坂



「栗原郡の女が磐井郡の男に嫁いだが離縁となった。しかし夫婦の愛情は続き、女は舞草観世音へ復縁祈願に通った。夕暮れ、この坂で女と偶然に出合った男は、暗さで怪女と見間違ひ殺してしまったが、よく見ると愛する妻であった。」との悲劇伝説がある坂です。

おくのほそ道の碑



おくのほそ道の序章が刻まれた石碑が、迫街道一里塚の手前に設置されています。なお、迫街道(陸奥上街道)は、奥州街道一関から岩出山を結ぶ街道であり、このうち一関分は、令和元年10月に文化庁の「歴史の道百選」に選定されました。

芭蕉の旅の目的とは?



芭蕉がおくのほそ道の旅に出た元禄2年(1689)は、尊敬する西行法師の500回忌にあたり、旅の目的は先人がめぐった歌枕の地を自分の足で辿り、心を寄せるためとされています。

この他にも、自分の俳諧を極めるため、源義経のゆかりの地を訪ねるため、公儀隠密として仙台藩を偵察するためといった説もあります。

このように諸説ありますが、芭蕉が平泉へどうしても行きたかったということは伝わります。

街歩き オススメスポット

日本の道百選の記念碑



一ノ関駅西口を出て西方面に100mほど行ったところに、日本の道百選の記念碑があります。昭和61年に、建設省（現在の国土交通省）が、8月10日を道の日と制定したことを記念し、日本の道百選を選定しました。その一つに、一関市の市道金沢線（花泉地域）・岩ヶ崎線（一関地域）が「芭蕉行脚の道」として選定されました。芭蕉一行がおくのはそ道の旅の途中に通った道であると考えられています。

追街道分岐点の道標

一ノ関駅西口を出て南方面に向かい、由緒ある八幡神社、願成寺を見やりながら進むと、程なく奥州街道と追街道の分岐点に着きます。この道を右手に進んだところに、分岐点にあった道標があります。（道路の拡幅により現在地に移転されました。）道標は、元文元年（1736）に建立されたもので「これより右はさま道左ハせんだい道」とあります。せんだい道とは、仙台へ行く道、つまり奥州街道のことです。



奥の細道ポケットパーク



一ノ関駅西口を出て先賢の路を西方面に向かい、歴史の小道を通して地主町方面に進むと、市営地主町駐車場の一角に奥の細道ポケットパークがあります。パーク内には、おくのはそ道のゆかりの地を紹介する案内看板や、芭蕉一行が一関に滞在したことが記された曾良旅日記の碑があります。芭蕉一行は、この近辺に宿をとったと考えられています。東屋があるので、散策のひと休みにおすすめです。

世嬉の一酒の民俗文化博物館

昔ながらの酒づくりを紹介する施設で、島崎藤村をはじめ、一関ゆかりの文学者を紹介する「文学の蔵」も併設しています。



カフェ徳蔵

ちょっとひとやすみ

世嬉の一酒造の敷地内にある酒蔵を改装したレトロなカフェ。コーヒーや紅茶、自家製ケーキをはじめ、地酒、地ビールも楽しめます。隣接しているレストランでは、一関の郷土料理「もち」を味わうことができます。

大槻三賢人像



一関に生まれ、江戸で蘭学を発展させた大槻玄沢。開国論者として知られる儒学者の大槻磐渓。国語学者でわが国最初の近代的国語辞書「言海（げんかい）」を発刊した大槻文彦。いわゆる大槻三賢人の像が一ノ関駅前（西口）に設置され、一関を訪れる方を出迎えています。

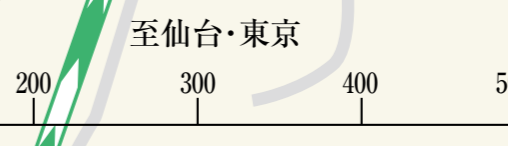
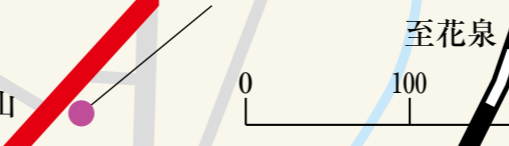
先賢の路

一ノ関駅を出ると目の前にまっすぐのびる通りが上ノ橋通りと呼ばれる通りです。通りには、建部清庵や長沼守敬など一関出身の賢人たちを紹介する案内板が設置され、散歩を兼ねて歩いてみると賢人たちに出会えます。



街歩き
MAP

松尾芭蕉が
通ったとされる道



釣山公園

一関市の中心部に流れる磐井川にかかる上ノ橋のすぐ南、標高約90mの小高い丘の上にある公園です。春は桜の名所となり、秋には鮮やかな紅葉が楽しめる場所です。春と秋には夜間のライトアップも行われます。公園内には高平小五郎の碑があります。

浦しま公園

旧一関藩主であった田村家の迎賓館跡を利用した公園です。純和風庭園にはさまざまな草花や樹木が茂り、四季折々の庭園美を満喫できます。

旧沼田家武家住宅

江戸時代後期に一関藩家老を務めた沼田家の住宅で、18世紀初頭から中頃に建築されたと推測されています。約300年の歴史をもち、当時の武士の暮らしを垣間見ることができ、貴重な建物です。一関市が建物修復と環境整備を行っており、一般公開しています。

N.S.Pメモリアルスポット

磐井川の堤防の上は一関工業高等専門学校出身者によるフォークグループ「N.S.P」のメモリアルスポットがあります。上ノ橋と磐井橋の中間の堤防の上（駅側）にギターをモチーフにしたベンチがあり、夏場は毎日17時・18時・19時に、N.S.Pの代表曲である「夕暮れ時はさびしそう」が流れます。

磐井川聖観音

昭和22・23年(1947・1948)に一関地方を襲ったカスリン、アイオン両台風で犠牲となった住民などを慰霊するため、昭和33年に磐井川堤防に建立されました。堤防改修工事により、一時移動されていましたが、平成28年(2016)に元の場所に戻されました。

磐井川水天宮

水難者を慰霊し水魔を払おうと昭和2年(1927)に磐井川河川敷に建立され、堤防改修工事により現在地に移転整備されました。水天宮は一関夏まつりとゆかりが深く、例大祭は祭りシーズン到来を告げる恒例行事となっています。また、水天宮がある通りではいちのせき賑わい「ど市」が開催されます。

一関八幡神社 相殿 田村神社

一関の総鎮守、一関八幡神社は、前九年合戦さなかの康平4年(1061)に源義家が勧請したと伝えられます。元々は御館山(釣山公園の場所)に鎮座していた社殿を、伊達兵部宗勝が現在の地に移しています。その後、田村家が一関に赴任した時に、田村神社を相殿として勧請しました。

願成寺

白馬山願成寺は曹洞宗の寺院で、正法寺(現奥州市)の末寺にあたります。至徳2年(1385)に正法寺二世月泉大和尚の弟子の梅栄元香和尚によって開山されました。願成寺所蔵の木造薬師如来坐像が岩手県指定文化財、木造不動明王坐像が一関市指定文化財になっています。

祥雲寺

一関藩を治めた田村家の菩提寺です。前身は岩沼(現宮城県岩沼市)にあった長谷山大慈寺で、田村建頭が天和2年(1682)に一関へ移封されたのに伴い現在地に移り、祖母の法名をとって大慈山祥雲寺と改められました。一関藩主田村家の墓所があり、歴史の一端に触れることができます。

やぐらの広場

一関藩主田村建頭が、幕府から内々に許可を得て貞享3年(1686)7月1日に太鼓櫓を設置した場所です。太鼓は当時の一時ごと(1日12回)に鳴らされ、時の太鼓と呼ばれました。現在、時の太鼓(市指定有形文化財)は藩主の祈願寺であった長昌寺に所蔵されています。

二代目時の太鼓

時の太鼓は江戸時代、城下町に時刻を告げるため、一関藩が幕府から内々に許可を得て当時の一時ごとに鳴らしたとされ、その太鼓は長昌寺に所蔵されています。「二代目時の太鼓」は、東北新幹線開業を祝い製作され、JR一関駅新幹線コンコース内に展示されています。

一関図書館・Cafe Journal

蔵書数34万冊の一関市の中核図書館です。芭蕉に関する資料等多数の郷土資料を所蔵しています。一関市外の方も利用が可能です。施設内にはカフェもあり、ドリンクメニューが豊富で自家製の焼き菓子等も味わえます。

令和元年度文化庁選定 【歴史の道百選】陸奥上街道

「蔵主沢～迫街道一里塚」をトレッキング

蔵主沢までは、市営バス橋倉・川台線八森行に乗車し「蔵主沢」バス停で下車、徒歩1分です。

トレッキングの際の注意点

山道なので足元はトレッキングシューズ等歩きやすい靴がおすすめです。
また、クマやシカ、タヌキなどの野生動物が現れたりすることもあります。景色を楽しみながら、ガイドと一緒にグループでの散策をおすすめします。

※一関カントリークラブ内を通行する場合は、事前に許可を得てください。

ちょっと足を伸ばして博物館へ

一関市博物館

刀剣や和算など、一関地方の特色ある歴史や文化を紹介。芭蕉が旅したところの一関の絵図も所蔵しています。

☎0191-29-3180
県交通厳美溪線「厳美溪」下車徒歩5分
9:00~17:00 月曜休 入館料一般300円

平泉文化遺産センター

平泉の文化遺産の魅力をパネルや映像などで紹介しています。芭蕉に関するパネル展示も行っています。

☎0191-46-4012
JR東北本線「平泉駅」下車徒歩15分
9:00~17:00 入館無料

街歩きオススメコース

1 芭蕉の道を網羅コース

起点 一関駅	日本の道百選の記念碑	大町通り散策	浦しま公園	奥の細道ポケットパーク	二夜庵跡	磐井川水天宮	世嬉の二酒の民俗文化博物館	N.S.Pメモリアルスポット	旧沼田家武家住宅	やぐらの広場	釣山公園	一関八幡神社	迫街道分岐点の道標	カッパ屋	終点 一関駅
	2分 140m	4分 300m	5分 300m	3分 240m	2分 180m	1分 70m	1分 40m	3分 210m	5分 400m	2分 170m	5分 400m	9分 600m	9分 650m	15分 1200m	14分 1100m

2 ぶらり街歩きコース

起点 一関駅	大町通り散策	奥の細道ポケットパーク	二夜庵跡	磐井川水天宮	世嬉の二酒の民俗文化博物館	旧沼田家武家住宅	やぐらの広場	図書館・文化センター界隈	日本の道百選の記念碑	終点 一関駅
	6分 400m	8分 650m	2分 180m	1分 70m	1分 40m	5分 400m	2分 170m	2分 180m	5分 400m	2分 140m

トレッキングでひと汗かいたら…
一関温泉郷でリフレッシュ!!

詳しくはパンフレットをご覧ください
いち旅!温泉郷パンフレット